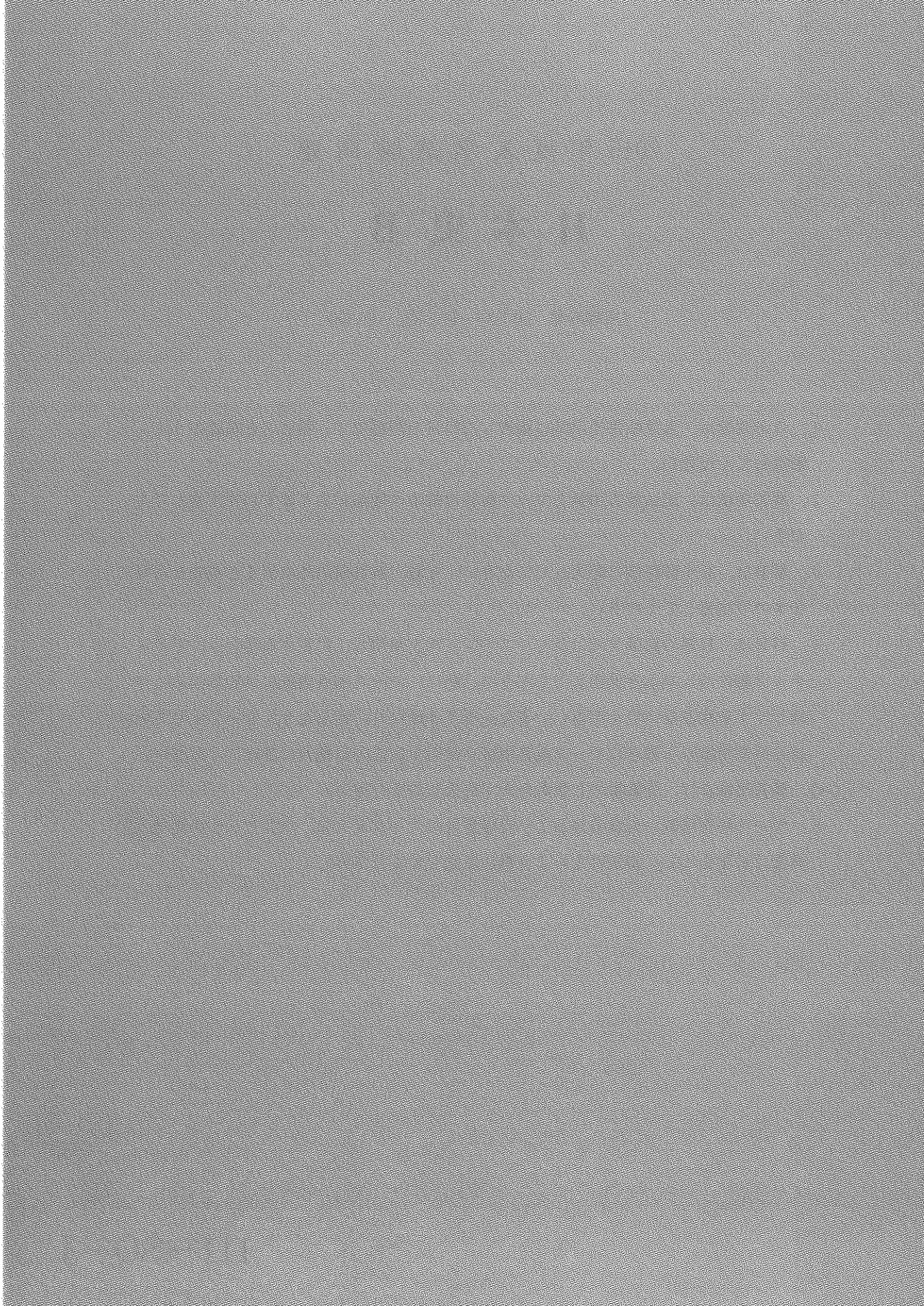


2015 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、**HB**の鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。



I 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1、問6、問8、問10は記述解答用紙に答えなさい。問2～問5、問7、問9はマーク解答用紙にマークしなさい。
(30点)

平安末期、勢威を誇る平清盛は、後白河法皇を幽閉し、国家機構のほとんどを掌握した。平氏政権への不満は各層で高まり、源氏の勢力が兵をおこすと大きな争乱となり、平氏は滅亡した。

平氏滅亡後、源頼朝は、後白河法皇に要求し、守護・地頭の任命権、兵糧米の徴収権、国衙の役人のうち、国司やその派遣にかかる目代の指揮下で実務を担当していた 1 に対する命令権を認めさせた。また、頼朝は、鎌倉幕府の職制も整備した。

頼朝の死後、幕府内で実権を握ったのは、伊豆の 1 出身の北条氏であった。一方、朝廷では後鳥羽上皇を中心に朝廷の勢力を挽回する動きが強められた。源実朝の死を受けた將軍職の後継問題等をめぐって朝廷・幕府の関係が不安定になると、後鳥羽上皇は、幕府打倒の兵をおこした。しかし、東国武士の大多数は北条氏のもとに結集して戦いにのぞみ、幕府が勝利した。この承久の乱後、幕府は、朝廷側の人びとを厳しく罰し、京都に新たに六波羅探題をおいて朝廷を監視し、西国諸国の御家人の統轄にあたらせた。これによって、西国における幕府の支配権が飛躍的に強化された。さらに、幕府は、大田文を作成させて軍役を課する際の台帳とし、また、2 の皇子を將軍にむかえて幕府を権威づけた。

13世紀後半、わが国は元寇という未曾有の国難に見舞われるが、この危機も、幕府が西国一帯に勢力をいっそう強める契機となった。北条氏の権力はさらに拡大し、家督をつぐ得宗の勢力が強大となった。このころ、御家人たちは、貨幣経済の進展等により深刻な経済的苦境にあった。これに得宗専制への反感が加わり、幕府の支配は危機を深めていった。

後醍醐天皇が即位したのは、14世紀はじめころのこのような時期であった。このころ、皇室では、2 の没後に成立した持明院統および大覚寺統が対立していた。幕府による両統迭立の提案を受けて即位したのが後醍醐天皇である。後醍醐天皇は、幕府への反発が高まっている状況を見て、倒幕の計画を進めた。倒幕の機運はひろがり、新興武士らが拳兵し、有力御家人の足利高氏（のちの尊氏）が幕府に反旗を

ひるがえすにいたり、鎌倉幕府は滅亡した。

後醍醐天皇が始めた建武の新政では、記録所などの諸機関が配置され、天皇の側近が登用された。新政策は、武士の慣習を無視していたため、大きな不満を引き起こした。離反した足利尊氏は、持明院統の天皇を立て、室町幕府を開いた。一方、後醍醐天皇も正統の皇位にあることを主張したため、南北朝の動乱が始まった。長期化する内乱の中で、幕府は半済令を出した。

半世紀以上も続いた動乱も、14世紀後半に足利義満が3代将軍になるころにはしだいにおさまった。幕府は、京都の市中警察権も握り、各種職務は、この時代にほぼ整った幕府職制の中で分掌させた。

15世紀初頭ころまでの4代足利義持の時代は、将軍と有力守護の勢力均衡が保たれていたが、やがてこれも崩壊し、嘉吉の乱により将軍の権威が失墜したところへ有力守護家の相続争いが加わり、大きな争乱が生じた。長引く争乱の中で守護大名は勢力を失い、15世紀末には本格的な戦国争乱の時代に突入した。

約1世紀にわたる戦国争乱は、16世紀後半になるとようやく終息にむかった。領国支配を確立した戦国大名のなかで、織田信長は、武力による全国統一を実行に移そうとしたが、業なかばにして倒れた。遺業を継いだのは、羽柴秀吉であった。秀吉は、朝廷から関白に任じられた。秀吉は、天皇をむかえた場で諸大名に忠誠を誓わせるなど、巧みに伝統的権威を利用した。

問1 文中の空欄 に入るもっとも適切な語句、および文中の空欄

に入る上皇の名を、漢字で答えなさい。

問2 下線部①および⑧で述べられている幕府の職制に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 政所は、鎌倉幕府・室町幕府を通じて、一般政務や財政事務をつかさどった。しかし、室町幕府においては、直轄領を管理した直轄軍が侍所の管理下であったので、直轄領からの年貢・公事は、侍所におさめられた。
- b 鎌倉時代の政所の長官職は、その前身であった公文所の長官に就任した大江広元の子孫が世襲した。同様に、室町幕府の政所の長官職には、主として、伊勢氏の一族が任命された。
- c 侍所・政所・問注所は、将軍職に伴う職務の遂行機関であるので、源頼朝・足利尊氏が征夷大將軍に任じられた後に設置された。
- d 鎌倉幕府の問注所は裁判事務を担当した。その後、北条時頼が設置した評定衆が、合議で裁判を行うようになった。室町幕府も評定衆を置いた。

問3 下線部②に関連する次の説明文のうち、誤っているものを1つ選び、その記号をマークしなさい。

- a 源実朝の死後、北条義時は、後鳥羽上皇の皇子を将軍に迎えようとしたがゆるみされず、摂関家出身で源頼朝の遠縁にあたる九条頼経を迎え、将軍にした。摂関家出身の将軍は2代続いた。
- b 後鳥羽上皇は、自分に関係する荘園の地頭職の停止を幕府に要求していた。
- c 後鳥羽上皇は、白河上皇のときに設置された北面の武士に加えて新たに西面の武士をおき、軍事力の整備につとめていた。
- d 承久の乱後、幕府は、後鳥羽上皇を含め3上皇を配流したが、乱に直接関与しなかった仲恭天皇の位は奪わなかった。
- e 後鳥羽上皇は『新古今和歌集』の編纂を命じ、源実朝は『金槐和歌集』を残した。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 北条泰時・時房は、承久の乱後も京都にとどまり、京都の警備・朝廷の監視にあたった。
- b 六波羅探題は、鎌倉時代を通じて、尾張から九州までにいたる西国の御家人の統轄や訴訟の処理にあたった。
- c 六波羅探題は、執権・連署につく重要な地位として、北条氏の有力者が任命された。

問5 下線部④の大田文に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 承久の乱の2年の後に大田文の作成を命じたのは、時の執権北条泰時である。
- b 幕府は、国衙に大田文の作成を命じた。
- c 大田文には、荘園・国衙領の面積、荘園領主・地頭などの領有関係が記されていた。

問6 下線部⑤に述べられているように、元寇は、西国諸国における幕府の支配強化をもたらした。その内容を、100字以内（句読点を含む）で説明しなさい。

問7 下線部⑥の半済令に関連する説明文として正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 半済令とは、守護に、任国の荘園・公領の年貢の半分を、兵糧米として徴収する権利を与えるものであった。守護はこの権利を、家臣団への統制力を強化するのに用いた。
- b 観応の擾乱がはじまったその年に、初めての半済令が出された。
- c 初めの半済令は、戦乱における軍事費が調達できるよう、主戦場であった3国についてのみ、1年に限り行われたものであった。

問8 下線部⑦で述べられている京都の市中警察権は、室町幕府によって奪われるまでは、朝廷のある役職が管轄していた。その役職を創設したとされる天皇の名を漢字で答えなさい。

問9 下線部⑨の関白に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 関白は、摂政とともに令外の官である。
- b 後醍醐天皇は、建武の新政において、幕府・院政とともに関白をも否定して、天皇への権限集中をはかった。
- c 羽柴秀吉は、武家勢力の者としてはじめて関白になった。臣下ではじめて関白の任を務めたのは、藤原良房である。
- d 大政奉還後の王政復古の号令において、摂政・関白の職が廃止された。

問10 文章中に現れる武家勢力の人物のうち、存命中に朝廷から太政大臣に任命された者を3人選び、その氏名を漢字で答えなさい。

II 次の文章を読み、下記の設問に答えなさい。問1は記述解答用紙に答えなさい。問2～問8はマーク解答用紙にマークしなさい。(30点)

江戸時代になると貨幣制度がしだいに整えられ、やがて中国からの輸入銭は使われなくなった。幕府は金座などで金貨・銀貨・銭貨のいわゆる三貨をつくり、全国に流通させた。もともと、江戸をはじめ東日本では主に金貨が決済に使われ、大坂をはじめ西日本では主に銀貨が使われた。また、銭貨は少額の取引に用いられた。三貨のほかに藩が発行する紙幣(藩札)もあった。貨幣制度の整備は、取引の円滑化、商品流通の安定・拡大につながり、江戸時代に経済が発展する基盤のひとつとなった。

金貨・銭貨は [1] 貨幣であったのに対し、[2] とよばれる大きめの銀貨も豆板銀とよばれる小型・補助用の銀貨も秤量貨幣であった。のちに金貨の単位で額面が表示される銀貨も発行されるようになったが、秤量貨幣が廃止されたわけではなかった。銭貨である [3] の発行は将軍家光の時代に始まった。これは当初1枚1文として発行されたが、のちに四文銭もつくられた。

三貨それぞれの単位は異なっていたから、幕府は1609年に三貨の交換比率を公定し、1700年にそれを改定する法令をだした。しかし、実際にはそのときどきの相場にもとづいて両替がおこなわれていた。国内の金遣い経済圏と銀遣い経済圏との流通を円滑にするうえで両替商がはたした役割は大きかった。

有力な両替商は両替ばかりでなく、融資をおこなったり、遠隔地間の送金を手形で処理する [4] 業務を営んでいた。また、諸藩では [5] を大坂などに設けて自領の年貢米や特産品を販売していたが、両替商のなかには [6] に任命され、その販売代金の出納にあたるものもいた。

江戸時代には貨幣の改鑄がしばしばおこなわれた。貨幣の改鑄の際に品位を落とすことが多かった。これによる差益は [7] とよばれたが、この差益により幕府は多額の収益を得ることができた。[8] は、その著書『夢の代』で貨幣改鑄の弊害を指摘している。もともと、貨幣改鑄には、財政補填ばかりではなく、通貨量を増加させて経済を活性化するという目的があったのではないかとみられている。

問1 文中の空欄 ～ に入るもっとも適切な語・氏名を漢字で答えなさい。

問2 下線部①に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 室町時代になっても洪武銭などの宋銭が使われていた。
- b 室町時代に輸入銭を模倣した粗悪な私鑄銭が国内でつくられた。
- c 織田信長は銭貨の流通を統制する撰銭令をだした。

問3 下線部②に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 後藤祐乗が江戸に招かれ小判をつくったのが金座の始まりとされている。
- b 天正大判は江戸幕府発行の金貨である。
- c 三貨のうち銭貨を鑄造したのは銅座である。

問4 下線部③に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 江戸幕府は経済政策に影響するため藩札の発行を許可したことはなかった。
- b 福井藩のように藩札を発行しなかった藩もあった。
- c 江戸時代には藩札以外に，私札とよばれる紙幣も流通していた。

問5 田沼期に発行が開始された下線部④のような銀貨には「以南録 片換小判一両」とあるが，この空欄 に入る漢数字として適切なものを次のなかから選び，その記号をマークしなさい。

- a 弐 b 四 c 八 d 拾六

問6 下線部⑤の1700年の法令では金1両は銀何匁にあたるとされたか。適切なものを次のなかから選び，その記号をマークしなさい。

- a 40 匁 b 50 匁 c 60 匁 d 80 匁

問7 下線部⑥に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 大岡忠相は有力な両替商を選び江戸町会所の運営にあたらせた。
- b 藩の公金ばかりでなく江戸幕府の公金をあつかう両替商もいた。
- c 三井は呉服店のほか両替店も営んでいた。

問8 下線部⑦に関連する説明文として正しいものにはイ，誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 将軍綱吉は慶長小判より金含有量の少ない小判を発行した。
- b 将軍吉宗は正徳小判より金含有量の少ない小判を発行した。
- c 将軍家齊は江戸時代でもっとも金含有量の少ない小判を発行した。

Ⅲ 次のA～Eは、松下孝昭『軍隊を誘致せよ』(2013年)の抜粋である(一部改変)。これを読んで、設問に答えなさい。問1、問3は記述解答用紙に答えなさい。問2、問4、問5はマーク解答用紙にマークしなさい。(40点)

A [1] の発布は、1873年1月10日である。その前日には、全国を6つの軍管に分けてそれぞれに [2] を置き、さらに14の営所を設けることが布告された。[2] の位置は、第一軍管の東京を除けば、第二軍管・[あ] 城、第三軍管・[い] 城、第四軍管・[う] 城、第五軍管・[え] 城、第六軍管・[お] 城と、いずれも規模の大きい旧城郭が指定された。東京だけは、江戸城が皇居とされたので、旧城郭は利用できなかったのである。

B 海軍では1886年4月に海軍条例を定めた。全国の海岸と近海を5つの海軍区に分けてそれぞれに軍港を定め、鎮守府を置くことにしたのである。鎮守府はその海軍区^①の防衛・警備にあたり、所属する艦船の統率や出師準備などをつかさどる官庁である。

最初の東海鎮守府は横浜に仮設されたが、1884年に横須賀^②に移転し、横須賀鎮守府と改称された。次いで1886年には広島県の呉と長崎県の [3] にも鎮守府を置くことを決め、1889年7月にそれぞれ開庁した。第四に日本海側の舞鶴が選ばれ、1889年に鎮守府設置の発表があった。しかし、その建設は遅れ、ようやく1901年10月に開庁している。さらに第五海軍区を設けて北海道の室蘭を軍港とする予定であったが、これは実現しなかった。

軍港に次ぐ海軍根拠地としては要港が定められ、港務をつかさどる官庁として要港部が置かれていく。1896年4月に長崎県対馬の竹敷に要港部が設置されたのが最初である。日露戦争後の1905年12月に青森県大湊(現むつ市)の水雷団が要港部に昇格したのが、国内では2例目である。要港部はほかに [4] 半島の旅順などにも置かれていく。他方、[5] によって対馬が国境の西端ではなくなると、その重要性が低下し、1912年に竹敷要港部が閉庁した。また、1920年代の軍縮^③の一環として、1923年に舞鶴の鎮守府が要港部へ降格になった。後の1939年には鎮守府に復帰している。

C 朝鮮における1882年の [6] と2年後の [7] を機に、政府内では軍事力の不足に対する危機感が強まってきた。そのため、「主権線と利益線」を主張する [8] の主導のもと、10ヵ年計画で軍備拡張に着手し、歩兵連隊を10個増設するほか、各兵科の部隊の増員にも着手した。

D 1923年の関東大震災では、流言蜚語がとびかう中で [9] が施行され、各地から派遣された軍隊が警備と救護活動を展開した。(中略)

こうした災害出動の一方、「暴動」とみなされた民衆運動に対して出動し、鎮圧にあたる治安維持の機能も発揮した。そもそも明治初期に旧城郭を拠点として6ヵ所の [2] を配置したことが、 [10] (1877年) をピークとする士族反乱への対応という側面を強くもっていた。

その後も、自由党解党直後に起きた激化事件である [11] や、1905年の日比谷焼討ち事件など、騒擾に対しても軍隊が出動して民衆に対峙した。さらに、大規模な労働争議にも出動している。たとえば1907年2月の [12] 銅山争議には、高崎歩兵第十五連隊が動員された。同年には [13] 銅山でも大きな争議があり、善通寺や松山の部隊が出動している。そうした中で最大のものは、1918年夏に全国的に発生した [14] である。この時は、26府県の122ヵ所で軍隊の出動があったと数えられている。

E 帝国陸海軍の解体から、戦後の冷戦激化を受けて再軍備が始まる1950年まで、5年間のブランクがある。1950年8月に [15] 設置令が公布されると、各地からまたしても誘致運動が起きてくるが、それまでの5年間で、ほとんどの旧軍施設は他の用途に転用されていた。したがって、旧軍施設を利用して [15] を誘致しようとしても、さまざまなあつれきが生じることになる。

問1 空欄 [1] ~ [15] に入るもっとも適切な語を漢字で答えなさい。

なお、空欄 [3] , [4] , [12] , [13] には地名が、空欄 [8] には人名が入る。

問2 Aの文中、空欄 ～ に入らないものを次の中からひとつ選んで、その記号をマークしなさい。

- a 仙台 b 名古屋 c 大阪 d 広島 e 福岡

問3 下線部①に関連し、平安時代の「鎮守府」に関して述べている次の文について、以下の問いに答えなさい。

802年、 が蝦夷の阿豆流為を服属させ、鎮守府を多賀城から へ移した。

- (1) 空欄に入るもっとも適切な語・人名を漢字で答えなさい。
(2) 下線部の読みをひらがなで記しなさい。

問4 下線部②に関連する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 徳川幕府はフランスから顧問団を招き、横須賀に製鉄所を建設した。
b 横須賀では、砂川闘争と呼ばれる基地反対運動が起きた。
c 横須賀には、現在、在日米海軍基地が置かれている。

問5 下線部③に関する国内外の事情を説明する次の文のうち、正しいものにはイ、誤っているものにはロをマークしなさい。

- a 当時イギリス・フランス・イタリアは、アメリカに対する戦債を返済する必要があった。
b 加藤高明内閣の陸相宇垣一成は、4個師団を廃止し、兵器を近代化した。
c 田中義一内閣は、幣原外交の基軸である中国内政不干涉と対英米協調を否定した。

